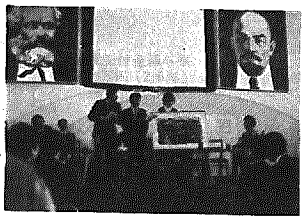
訪ソ青年の船 友好を深めて帰国

日本海の新時代を担う青年として、外国から日本をながめ、客観的に地域をみつめ、船上での経験をいかして新しい地域づくりをやってゆきたいものと、第一回県青年の船（団長笠原三喜男＝県連青団長）一行二八二名は、三月二十九日ソ連船バイカル号で新潟港を出港した。

一行は、新潟市の姉妹都市であるハバロフスク市をはじめ、イルクーツク市を訪問し、地元青年との交歓研修を行ったほか、主要施設の見学をするなどして両国の友交親善を深めて四月五日帰国した。

▲本村青年の船団員

▲ハバロフスク体育大学学生の歓迎たれ幕



少数民族ナナエ人ウリチ人の交歓会で絵をうけとる▶

◀鏡をみて発音の勉強している幼稚園児

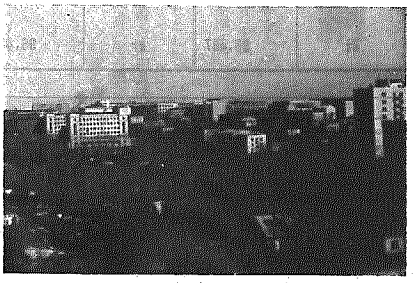
新潟県青年とハバロクスク市青年との交流は、一九六四年にはじめられた。

その時に、本村から岩田光雄氏が代表団として参加、一九六五年四月に、新潟市とハバロフスク市の姉妹都市締結に大きな役割を果した。その後、県連青は、田中久一氏を団長に訪ソ、経済的にも文化的にも密接な関係を保ちあらゆる階層の人たちが活発に交流されるようになった。

今回もまた本村から十三名の青年が「青年の船」に参加六月、新潟空港に極地間空路の開設を前に青年の船の意義は、大きなものがあったと考える。

今回の友交親善を基礎として新しい国際交流、更には、地域発展に一層まい進されることを期待したいものです。

佐藤輝男	27	高橋達一郎	23
市村正一郎	25	内山　栄	23
志田清一	25	高橋アヤ子	23
本間富雄	24	大竹俊文	22
仲村正男	24	谷沢シズ子	21
山田昭雄	24	高橋俊夫	19



▲ハバロフスク市街

社教委員長に塚原　宏氏
運審委員長に神田信雄氏　互選さる

村社会教育委員会と村公民館運営審議委員会は、去る四月十七日公民館で今年度第一回の会議を開催した。

両委員会は、それぞれ委員が新しく委嘱されたために、委員長、副委員長が互選されたあと、昭和四十八年度社会教育事業、公民館事業などを審議した。

社会教育委員長　塚原　宏
同副委員長　山城文代
運営審議委員長　神田信雄
同副委員長　坪谷フク

民具類のご寄贈
ご寄託のお願い

横越村文化財保護条例が三月定例議会で決定され、四月一日から発足することになりました。

村教育委員会では、この条例に基いて文化財調査審議会を設置して村内の文化財を本格的に調査をするほか、文化財の保存と集収にも力を入れてゆきたいと考えている。

従って、村民のみなさんから民俗資料、考古資料などのご寄贈、ご寄託をお願いします。

〔例〕

①農具類、漁撈具類、運搬具類、その他生産に関する民具。

②衣・食・住に関する民具類

横越村公民館までご連絡いただければ参上いたします。

TEL　二〇四三
有線　三五七二

銃砲刀剣類の審査会の開催

銃砲刀剣類登録審査会を毎月十五日新潟市弁天町、県都市青年の家で開催されています。

未登録銃砲刀剣類所持者は必ず出席して登録を済ませるようお願いいたします。

登録申請者が審査会場に持参するもの。

①登録を受けようとする銃砲、刀剣類の「現物」ならびに所轄警察署から交付を受けた「銃砲刀剣類発見届出受理証」

②登録手数料一件につき金五〇〇円分の「新潟県収入証紙」

③印鑑。

その他

①前記のいずれか一点を忘れた場合は登録できないので注意すること。

②銃砲刀剣類を持参する場合は、包装に十分注意し危険のない状態で持参すること。

③「新潟県収入証紙」は会場では販売しないので、各人で持参すること。

「新潟農業振興地域整備計画」の縦覧について

このたび新潟市では、新潟農業振興地域整備計画の案が定められ、このうち農用地利用計画案について次のように縦覧されていますので、その地域の土地に関する権利者は縦覧し、異議がある場合は申立てることができます。

◎縦覧期間
昭和48年4月16日から同年5月15日まで

◎縦覧場所
新潟市役所農林課

若妻学級生募集

講座開催日　毎月1回
時間　午前9時30分から午後3時
内容　新しい家庭経営、生活技術、幼児教育、趣味に関するものなど。
講師　各界専門家
定員　35才以下の婦人30名
参加希望の方は5月20日まで公民館へ

ひろば

お見舞返礼の廃止にみなさんのご協力を

沢海　T　子

毎日台所をあずかる主婦にとって、物価の値上りは一番恐ろしい。豆腐一丁百円、油揚一枚二十円もしては、いくら栄養があっても、これじゃ財布のひもをゆるめてばかりはいられない。糸を切ったたこじゃあるまいし、なぜ、すべての物価が上るのだろう。

せめて自分たちの手で出来る事は、皆んなで力を合せてやって見ようではありませんか。

第一に見舞いの返礼を廃止する事が出来たらどんなにうれしい事でしょう。不幸にして病の床に倒れ病院生活、または、家庭に臥せっている人も、人様からお見舞いを頂いて、やっと皆様のお力で快復出来た。

さて、このお礼に何を、お返ししたらよいかと、また頭を痛める。

病になってお金を使い果したばかりなのに返礼と言う言葉を多くの人から聞かされます。本当にそうだと思います。村外からの見舞いは仕方がないとしても、せめて村内だけでも、これを皆んなが力を合せて廃止の実行をして見ようではありませんか。区長さんを始め村内の皆さま、どうぞお力をおかしください。

新刊図書紹介

○妻とよばれるための二十八章　草柳大蔵
○夜を探せ　石原慎太郎
○放浪について　瀬戸内晴美
○妻象詩人　松本清張
○恋歌　五木寛之
○男はつらいよ(三)　山田洋次
○日本兵　鷲多正次
○七日七夜　山本周五郎
○ひつじが丘　三浦綾子
○幸福という名の不幸　曽野綾子
○栄光の岩礁(上三下)　新田次郎
○色魔　梶山季之
○資料大江山村史　田村顕三郎
○波の塔　松本清張
○にいがたふるさとの味　平山敏雄
○風を見た人(上三中三下)　水上　勉

トップ写真の説明

小阿賀野川は一説に能代川の流末ではなかったかと云われているが、そうすると満願寺から蒲島までの間は別に開いたということになるが事実は分らない。

正保図にはっきり河原が記してあり沢海小川若しくは、満願寺小川と云ったというから満願寺、沢海の間で阿賀野川から分流して能代川に注いでいたものでなかっただろうか。

満願寺本堂門ができたのは大正四年から昭和八年にかけて行われた阿賀野川第一期改修工事で行われたものであった。

しかし、昭和四十一年の流量改訂による流量増に対処するには、老朽化が甚しく、今後操作管理の安全保障ができないことから昭和四十五年度から昭和四十七年度にわたり総事業費約一五億円で改築された。